

令和6年度 春日部市市民活動センター「ぼぼら春日部」実施事業一覧 （1/4）

No	事業名	市民活動センター「6つ」の機能 ◎＝主に担う機能(1つ) ○＝相応に担う機能(複数可)						目的	実施状況／実施内容等	課題と今後の対応
		1 市民活動の窓口、相談、支援機能	2 情報収集・提供・発信機能	3 交流・ネットワーク機能	4 活動拠点及び事務所機能	5 市民活動に関する学習・研修機能	6 マッチングと協働支援の機能			
1	利用者会議		○	○	◎			利用者との意見交換の場をつくり、公正かつ透明な運営を実現する。	第1回：6月9日／6月12日（参加者：29団体38名） 第2回：8月17日／8月21日（参加者：58団体72名） 第3回：10月27日／10月31日（参加者：58団体80名） 第4回：2月12日／2月15日（参加者：26団体31名） ・名称を「利用者会議」から親しみやすい「ワクワクミーティング」に変更し、参加者の増加を促した。 ・新規登録団体の紹介や利用者同士の意見交換の時間を多くとり、交流の場としての役割を強化。 ・2回目、3回目はぼぼらフェスティバル説明会と合わせて実施。 上記の結果、参加者数は221名（前年比プラス155名）と大幅に増加。	【課題】 ・利用者会議に参加はしないが、普段から施設を利用している登録団体や一般利用者に、興味をもってもらえていない。  【今後の対応】 ・引き続き、開催前の周知および開催後の報告に関する情報発信を徹底していくとともに、ぼぼらフェスティバル等関心の高い事業と連携して実施していく。 ・審議会でのコメントも踏まえ、団体同士の交流の場としても機能させていく。
2	利用者アンケート				◎			センターへの評価や意見を収集するためのアンケートを実施し、結果を公正かつ透明な運営に活かす。	令和6年度上期アンケート（2024年8月5日～9月9日） 【回答数：251件（用紙回答233、Web回答18）】 施設満足度96%、職員満足度87%、事業満足度51%(未記入回答を除く96%)  令和6年度下期アンケート（2025年1月25日～2月28日） 【回答数：231件（用紙117、Web回答114）】 施設満足度96%、職員満足度96%、事業満足度62%(未記入回答を除く97%)	【課題】 ・年2回のアンケートの実施で回答者の大半が被っているため傾向にあまり差がみられない。全体的に回答者の事業への関心が低く、各々の利用目的以外に関心を持ってもらえていない。  【今後の対応】 ・窓口での声がけ等、できるだけさまざまな利用者にアンケートへの回答を協力してもらう。 ・通常の広報活動に加え、館内の掲示物や窓口での案内を強化し、事業を周知していく。事業計画を早期立案し、広報かすかべへの情報掲載をルーティン化するとともに、チラシ、HP、SNSの訴求期間を長期化し、発信量を増加させる。
3	市民活動講座	○	○			◎		市民活動に役立つ各種講座を開講し、市民活動の継承やステップアップにつなげる。	1、5月25日『教えてスマホ』（参加者：19名） ・埼玉県立大学のボランティア団体「やどり木SPU binders」との共催。（学生14名参加） ・シニアのデジタルデバйд解消のためのスマホやアプリの使い方講座・相談会。  2、5月26日『謎解き？！POPOLA』（参加者：36名） ・広報かすかべ5月号の特集記事と連携し、市民を対象に施設を紹介する謎解きイベントを実施。  3、7月14日『人生100年時代・地域活動のススメ』（参加者：23名） ・地域デビューを促すための市民活動基礎講座。埼玉県共助社会づくり課との連携事業。 ・春日部で活動する2名の活動者をコーディネートし、体験談を通じて市民活動の魅力を発信。  4、9月4日、9月11日、9月18日『スマートフォンを使いこなそう』（参加者：43名、3回実施延べ人数） ・総務省デジタル活用支援講座を3週連続講座として実施。 ・社会生活とデジタル活用という関心の高いテーマを切り口に、市民活動への興味を喚起。	【課題】 ・今年度は「ぼぼら春日部」が広報紙に掲載されたことを好機と捉え、市民活動を知らない・参加したことがない人に足を運んでもらうための講座を多く開催したが、既存の団体向けの講座が相対的に減少した。  【今後の対応】 ・デジタルサポート系の事業は支援ニーズが高いため、継続して実施。埼玉県立大学の学生団体との協働により「スマホサロン」を相談事業として定期開催。 ・一般市民も参加しやすい講座だけでなく、活動団体向けの専門的な講座もバランスよく実施していく。
4	協働を促す企画			○			◎	さまざまな課題を解決するため、市民活動団体や企業、自治会等とのコーディネートを行い、協働のきっかけをつくる。	1、3月18日～12月12日「ぼぼらフェスティバル2024」実行委員会の運営支援 ・参加団体による主体的な協働運営を促すために実行委員会を組成。 ・5団体8名から成る実行委員会（10回開催）の企画運営を事務局としてサポート。  2、8月3日「ぼぼらであそぼう！」こども支援団体による協働の場づくり ・ぼぼら春日部のコーディネートにより、4種類のこども遊びワークショップと親子で楽しめる体験イベントを5団体で実施（参加者アンケート：大変満足69%、満足27%）  3、7月23日～8月31日の間で12日間開催「こどもの居場所づくり」の協働実験 ・登録団体「こどもさあくる。」が夏休み期間中、週に2回学習支援等を「居場所」として開催。 ・共同事務室の活用とこども支援関連団体や地域団体とのマッチングをサポート。  4、3月15日協働による「かすかべSDGsフォーラム」への出展 ・地元企業・団体2者と協働し、市役所広場で「ENGLISH SPEECH DAY」を実施。  5、11月7日～3月27日こども・子育ての地域課題啓発のための協働による「シンポジウム」の開催 ・こども・子育て支援団体12者と協働しシンポジウムを企画。運営とマッチングをサポート。	【課題】 ・実行委員会や場の活用、イベント等、協働を促すためのきっかけを仕組み化できているものもあるが、課題解決に向けた取り組みはまだ少ない。 ・市民活動団体と自治会、市民活動団体と企業等、地域の異なる主体との連携機会を増やしていく必要がある。  【今後の対応】 ・自治会や市民活動団体へのアウトリーチ活動を通じて課題を共有していくとともに、地域のさまざまな主体が継続的に意見交換ができる機会づくりに取り組んでいく。

令和6年度 春日部市市民活動センター「ぼぼら春日部」実施事業一覧 （2/4）

No	事業名	1	2	3	4	5	6	目的	実施状況／実施内容等	課題と今後の対応策
		市民活動の窓口、相談、支援機能	情報収集・提供・発信機能	交流・ネットワーク機能	活動拠点及び事務所機能	市民活動に関する学習・研修機能	マッチングと協働支援の機能			
5	市民団体交流会			◎			○	登録団体がお互いを知り、連携につながる場や機会を提供する。	3月30日「カーレット大会」による団体交流会を実施 12団体・25名参加 ※カーレット（カーリングを卓上で実施するゲーム） 参加団体によるゲーム活動を通じて自然な対話を引き出すような場を企画・コーディネート。	【課題】 ・内向きの活動団体が多いため、活動を広げるための新たな出会いへのモチベーションは必ずしも高くない。他の活動への興味を喚起していく取り組みも必要と考える。  【今後の対応】 ・利用者会議に交流会的な要素を取り入れ、活動を知り、交流する機会を増やしつつ、さまざまな団体が気軽に参加しやすい交流会を企画する。
6	周年記念イベント「ぼぼらフェスティバル」	○		○		◎		多くの市民に市民活動を周知し、活動への参加のきっかけをつくるとともに、活動発表の場を提供することによって市民活動の継承とスキルアップを狙う。	12月7日・8日の二日間にわたり「ぼぼらフェスティバル」を開催。 ・「ふれあいキューブフェスティバル（県施設）」「健康フェア（春日部市保健センター）」との同時開催。 ・2日間来館者数 4,405名（4Fぼぼら春日部のみ）、全館来場者数12,567名 ・56の登録団体が参加し、67のイベントを実施。 ・登録団体有志による実行委員会により企画・運営 ・のぼり旗の制作、同時開催施設との共通チラシの作成、合同のスタンプラリー実施、飲食や物販を扱う「リヤカーゴ」の出店など様々な工夫を凝らした結果、過去最高の来場数となった。	【課題】 ・過去最大の出店数ではあったが、ぼぼら春日部の登録団体数からすると極一部の団体である。  【今後の対応】 ・次年度も継続的に賑わいのあるフェスティバルを目指すとともに、参加しなかった登録団体に向けて参加を呼びかけ、市民に向けて市民活動に触れる機会を提供していく。
7	月間イベント	○	○			◎		共催事業として活動を実践・発表・報告する機会を提供し、各々の市民活動団体がステップアップしていくことを目指す。	実施団体数18件（2024年度） ※4件（2022年度）、12件（2023年度） 【春日部市身体障害者福祉会】書道展／【粕壁写真クラブ】春日部の川写真展 【かすかべメディアカフェ】チャリティ映画上映「一献の系譜」／【NPO法人くらしの相談室】終活講座 【彩の国環境大学修了生の会】第2回こどもSDGs／【春日部市平和委員会】平和をねがう原爆展in春日部 【ヒップファミリークラブ春日部】おやこワークショップ 【寺子屋パソコンクラブ／春日部シニアPCサークル】パソコン公開講座とパネル展示 【春日部C工房】パネル展示／【NPO法人春日部地域資源振興会】干支の羽子板作り 【経営革新塾しよう会】公開講座「認知症との向き合い方」 【粕壁写真クラブ】メリーボローカメラクラブとの友好写真展 【グローバルファミリー】ウクライナに住む子ども達の絵画展2回目 【NPO法人こども支援地域プラットフォーム】「発達障害のある子どもへの支援」学習会 【NPO法人こども支援地域プラットフォーム】「特性のある子どもへの学習支援」学習会 【平和・民主・革新の日本をめざす春日部の会】「福島を忘れない」パネル展示とDVD鑑賞会 【二桜会】防犯対策セミナー／【カーレット春日部】カーレット体験会	【課題】 ・継続的な声掛けにより、件数は大幅に増加したが、特定の団体に偏らないように制度の活用を周知するとともに、活動団体が外に向けて積極的に活動を発信できるようサポートしていく必要がある。  【今後の対応】 ・件数が増えてくることを想定し、制度の運用・ルールを整備していく。 ・団体活動がさらにステップアップしていけるように、実施団体と制度利用後に振り返りを行う。
8	情報発信	○	◎			○		より多くの市民に情報を届け、市民活動に興味を持ち、参加してもらうきっかけをつくる。	1, 広報紙「ぼぼらだより」の発行：年4回発行（春号・夏号・秋号・冬号）計9,500部 2, ホームページの運用および団体サイトとしての登録利用の促進 ・ホームページ閲覧数：40,159（前年比+10,140） 3, SNS（Facebook・X）による情報発信 ・Facebookフォロワー：236名（前年比+23名）、Xフォロワー：791名（前年比+92名） 4, メールマガジンによる情報発信（毎月月初に発信） ・メールマガジン購読者：115名（前年比+42名）	【課題】 ・ホームページの閲覧数は増加傾向にあるものの、登録団体からの発信（記事の掲載）は一部の団体に限られており、団体自身が活動を発信していけるようにサポートしていくことが必要。 ・Facebook、Xのフォロワー数の増加が少ない。  【今後の対応】 ・ホームページの利用団体を中心に使い方を丁寧にサポートするとともに、新規登録の受付時にホームページの活用を促す。 ・フォロワーや利用者拡大を目的としたチラシを作成し、交流ミーティングスペースを利用する学生を中心に案内する。
9	相談事業	◎	○	○				市民活動の立ち上げから運営まで、さまざまな相談に対応し、個別の支援ニーズに対応する。	1, 年間を通してアドバイザーを配置し、様々な相談に随時対応。 ・2024年度の相談対応件数：90件  2, 埼玉県立大学の学生ボランティアとの協働により、スマホサロンを定期開催 ・10/6、12/7、3/23に開催：参加者約60名	【課題】 ・アドバイザーへの相談は基本予約制としているが、不在時には職員が対応できるように知識とスキルの向上が求められる。  【今後の対応】 ・相談内容の記録をもとに職員間で対応について勉強会を行うなどのスキルアップを図る。

令和6年度 春日部市市民活動センター「ぽぽら春日部」実施事業一覧 (3/4)

No	事業名	1	2	3	4	5	6	目的	実施状況／実施内容等	課題と今後の対応策
		市民活動の窓口、相談、支援機能	情報収集・提供・発信機能	交流・ネットワーク機能	活動拠点及び事務所機能	市民活動に関する学習・研修機能	マッチングと協働支援の機能			
10	運営パートナー制度	○			◎		○	施設の運営に市民も参加してもらうことで、より公正で開かれた施設の実現に寄与する。	活動の内容や役割に応じて、運営パートナーがそれぞれに分かれて活動。 ・現在のパートナー数：14名 印刷パートナー：毎週水曜日・土曜日に、印刷室内の機器の使い方を教え、印刷のサポートを行う 編集パートナー：ぽぽらだより紙面の企画立案および取材・記事作成、写真撮影等のサポートを行う イベントパートナー：利用者会議やぽぽらフェスティバル等、イベント開催時のサポートを行う 館内装飾パートナー：折り紙・バルーンアート等、親しみのある空間にするための装飾 環境づくりのサポートを行う ・運営パートナー会議開催：8/31（第1回8名）、2/26（第2回11名）	【課題】 ・既存の利用者を中心に、運営パートナー（ボランティア）として関与できる活動内容を知ってもらい関心を持ってもらう必要がある。  【今後の対応】 ・頻繁に施設に来訪する利用者に対して、運営パートナー制度を案内・募集するとともに、ボランティアが関与できそうな活動内容を増やしていく。
11	モヤモヤカフェ	○		◎				個人や団体がゆるやかにつながることを通じて、それぞれの活動が活発化し、広がることを目指す。	身近で活動している市民をゲストに招き、対話を通じて、地域の課題や活動に関心を向けてもらう。 1, 6月13日：地域デザイン、障害とスポーツ ※武里「暮らし図書室」で出張開催 2, 8月31日：自治会 3, 11月7日：こども・子育て ※テーマに関連する団体が多く参加したため以降、複数回にわたって同テーマで開催 4, 11月12日：こども・子育て 5, 11月20日：こども・子育て 6, 12月11日：こども・子育て 7, 3月23日：男のセカンドライフ、環境保全	【課題】 ・ゆるやかにつながる対話の場を増やしていくことが大切であるが定期的に開催できていない。開催結果の共有も若干滞っている。  【今後の対応】 ・テーマや開催方法を改善していくとともに、フィールドリサーチ等の他の事業と連動して市民との接点を増やしていく。開催結果はホームページ等で共有していく。
12	フィールドリサーチ 団体訪問		○				◎	活動実態や支援ニーズを現場訪問を通じて調査し、地域の人材を可視化していくことで市民活動の基盤を整備する。	1, 7月2日：りそなYOUTH BASE訪問(埼玉りそな銀行せんげん台支店内) 2, 9月30日：NPO法人春日部地域資源振興会、飯島桐箆箸製作所訪問 3, 10月23日：NPO法人春日部地域資源振興会、有限会社水野製作所訪問 4, 11月21日：KIKI STAND（春日部市小淵）リヤカーゴ作りワークショップ訪問 5, 12月21日：コワーキングスペース「わたしの基地」訪問（にゃんこフェスタ） 6, 3月6日：医療生協さいたま・かすかべ生協診療所	【課題】 ・計画的に実施出来ていない現状がある事と、取材結果の共有などが不十分となっている。  【今後の対応】 ・地域メディアとの連携やボランティアの活用等を模索しつつ、取材結果をホームページやぽぽらだより等で発信していく。
13	施設利用の 活性化				◎			市民活動団体への必要な支援として、施設の環境整備や機能の拡充、利便性の向上に取り組む。	1, 「ぽぽらの本箱」として、中央図書館から借りた書籍を300冊設置し、書籍の貸出サービスを実施。 2, 施錠管理されていた共同事務室を常時開放し、不活性スペースの利用を促進。 3, 学生の利用が急増したため、交流ミーティングスペースの利用ルールを見直し、3時間制で公平な利用を実現。 4, 本の物々交換を実現するための「まちかどライブラリー（本棚）」を設置、運用。 5, 施設の認知向上のための一手として、ぽぽらフェスティバルに合わせ「のぼり旗」を作成。 6, 共同事務室の活用方法を検証するために、一部のスペースを「こどもの居場所」として試験的に運用。 7, 共同事務室の利活用の一環として「おもちゃの病院」を試験的に開院。	【課題】 ・交流ミーティングスペース、共同事務室等、本来とは異なる用途で利用されているスペースは使用状況を踏まえて現実的に改善を図る必要がある。 ・貸事務所については、利用ニーズを的確に掘み、さらなる認知の向上に努める必要がある。  【今後の対応】 ・貸事務所については定期的に内覧会を実施し、広域でPR活動を行う等、まずは認知度の向上に取り組むとともに、引き続きアンケートやヒアリングにて利用者ニーズの把握にも努める。



令和6年度 春日部市市民活動センター「ぽぽら春日部」実施事業一覧 （4/4）

No	事業名	1	2	3	4	5	6	目的	実施状況／実施内容等	課題と今後の対応策
		市民活動の窓口、相談、支援機能	情報収集・提供・発信機能	交流・ネットワーク機能	活動拠点及び事務所機能	市民活動に関する学習・研修機能	マッチングと協働支援の機能			
14	施設PR		◎		○			センターの認知向上や啓発活動を通じて市民活動を活発かつ持続性のあるものにする。	1, 4月28日：登録団体と協力して「春日部藤まつり」へ出展。簡易アンケートと併せてパンフレットやトートバッグを配布。 2, 5月1日：「広報かすかべ」の特集ページにぽぽら春日部が掲載。 登録団体の座談会や市民活動の紹介記事の企画・編集に協力。 3, 6月8日：地域の軒先イベントで「出張まちかどライブラリー」を開催。 4, 8月3日：ふれあいキューブの1階屋外スペースを活用してコミュニティ実験「スナックリヤカーゴ」を実施。 ※8/30は台風接近のため中止 5, 9月8日：地域の軒先イベントで「出張まちかどライブラリー」を開催。（2回目） 6, 11月19日、27日：ふれあい大学へ講師を派遣。 登録団体の活動を事例にして「市民活動について」の講義を実施。	【課題】 ・広報かすかべの掲載にあわせて一般市民向けのイベントを実施するも、大きな反響とまでには至らず、より分かりやすく参加しやすい企画から市民活動への関心喚起が必要。  【今後の対応】 ・藤まつりへの出展やふれあい大学への出講等は継続しつつ、多くの市民の皆様にはぽぽら春日部を知っていただく機会には引き続き積極的に参加していく。
15	シンポジウム		○			◎	○	市民活動や地域課題、まちづくり等について、市民への啓発に取り組む。	3月16日：子ども・子育て支援を行う6団体との協働により、「子ども・子育て応援シンポジウム」を実施。 こどもの貧困や居場所、障害児支援、産前産後の母親支援、学校教育等、子どもに関連するさまざまなテーマで参加者との意見交換を実施。基調講演では、長野県阿智村から講師を呼び、社会教育を起点に市民が主体となるまちづくりの事例を紹介。 子ども育成課より令和7年4月施行の「春日部市子ども・若者計画」も紹介。	【課題】 ・子育て当事者よりも、支援者向けのテーマ設定、講演内容となり、一般市民への訴求が弱かった。専門的なテーマをより多くの市民の興味・関心、自分事として捉えてもらうための工夫が必要。  【今後の対応】 ・比較的市民の関心が高そうなテーマを扱うか、春日部の課題や市の施策を扱うか、議論を深めた上で実施していく。
16	活動見本市		○			◎		登録団体が活動を振り返り、ステップアップするための機会とすると共に、団体同士が互いの活動を知る機会をつくる。	1月21日～3月30日：各回2週間ずつリレー形式でパネル展示を実施（35団体参加） 紹介動画はYouTube（ぽぽらチャンネル）にアップロード（8団体参加）3/31時点再生回数1886回	【課題】 ・団体自身が活動を振り返る機会にはなっているが、他団体の活動にどれだけ関心を持ってもらえているか測る指標がない。 ・必ずしもすべての団体が発表・報告の必要性を感じているわけではない。  【今後の対応】 ・動画見本市に関しては、団体へのヒアリング等を通じて必要性の有無を再検討する。